



「福澤育林友の会」ニュース

第48号 発行日2025年8月1日

福澤育林友の会
東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部
TEL:03-5427-1050 FAX:03-5427-1190
<http://ikurin.jp/>



「慶應の森との4年間」

福澤育林友の会

前会長 岡田 英 史

(慶應義塾常任理事)



慶應義塾常任理事の担当交代に伴い、私は7月15日をもって、福澤育林友の会会長を退任させていただきました。思い起こすと、就任した4年前は、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ続いており、慶應義塾大学においても、ワクチンの職域接種が開始されたばかりの時期でした。福澤育林友の会も活動を自粛しており、オンラインでの講演会再開を企画している状況だったと記憶しています。

会長に就任するまで学校林のことをほとんど知らなかった私にとって、慶應の森を自分の目で見ることが最初の課題でした。全国に点在するすべての慶應の森を訪問することは到底無理でしたが、コロナによる行動制限が緩和された2022年5月に、最大の学校林である南三陸町志津川山林を訪問したのをはじ

め、三重県志木の森での志木高生の森林体験学習や、卒業50年を来年迎えられる117三田会有志の皆さんによる、栃木県友情資産25年の森への訪問に同行させていただくことができました。

慶應の森と関わることで、学校林に関して様々なご協力をいただいている林業三田会の皆様をはじめ、多くの方々と出会うことができました。また、学校林やキャンパスの雑木林において、様々な授業・課外活動が実施されており、教職員のサポートのもとで、一貫教育校生を含む多くの塾生が参加していることも知ることができました。このことで、慶應の森で活動する人々をつなぐことが、次の課題となりました。2024年の正月明けには、環境情報学部の一ノ瀬研究会が南三陸の森で炭素蓄積量と生物相のモニタリングを実施するのを契機に、南三陸で山・海・里に関する活動を行っている「みなさんmiraiプロジェクト」の有志と、慶應義塾SDGs会議（塾生会議）の提言から立ち上がった「森プロジェクト」のメンバーが、合同で活動する機会を持つことができました。

今年7月に開催された「森を愛する人々の集い」が、私にとって会長としての最後のイベントとなりましたが、「南三陸慶應の森の自然環境と生物相」と題した一ノ瀬環境情報学部長の講演と、一ノ瀬研究会の大学院生によるポスターセッションには、福澤育林友の会の皆様に加えて、「みなさんmiraiプロジェクト」のメンバーをはじめとする多くの塾生、教職員の皆さんにご参加いただき、森を愛する人々の輪の広がりを実感することができました。

最後になりましたが、慶應の森の維持にご尽力いただいている皆様、そして塾生諸君の様々な活動にご支援をいただいている皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。森を愛する人々の輪が広がり、絆が強くなるよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

2024年度－2025年度の活動報告・活動予定について

■研修旅行 埼玉県名栗 自由学園の森見学会

日時 2025年3月22日（土） 日帰りバスツアー

場所 自由学園の森

2024年度の研修旅行は、速水林業の速水様のご縁をつないでくださり学校法人自由学園の名栗植林地（埼玉県飯能市）を見学させていただきました。慶應義塾以外の学校林はどのように活用され、管理されているのか。なかなかこうした見学の機会を持つことは難しいのではないのでしょうか？

研修旅行の直前に季節外れの名残雪、秩父方面はかなりの積雪との情報がもたらされました。旧国道は狭くうねった山道で、積雪があると通行ができなくなるということでしたので、直前で中止とせざるを得ないのかと緊張が走りました。幸い、その後気温が上昇したことにより融雪が進み、通行に問題はないと自由学園の吉川先生よりご連絡がありました。

三田キャンパスからバスで出発すること約2時間、関東平野ののっぺりとした景色から一変、眼前に山並みが現れました。目的地の正丸峠は江戸と秩父を結ぶ道のひとつで、奥武蔵野山々を望むことができます。かつては国道299号であった峠に向かう道にはまだまだ

雪が残っており、カーブの度にスリル満点。しかし、しっかりと美しい杉に囲まれた道です。正丸峠に到着後、自由学園OBのご夫妻が営まれる茶屋にて、まずは地元の味噌豚丼で腹ごしらえをし、自由学園の皆さんと合流しました。

自由学園の学校林に関するレクチャーを受け、いよいよ自由学園の学校林へ入ります。自由学園名栗植林地は飯能市との分収林とのことで、今回のツアーには飯能市森林づくり課からも職員の方がお二人同行してくださりました。

ご用意いただいたヘルメットを装着し、林道を進みます。先日の悪天候の影響による残雪や、折れた枝などに交じり、野生の小動物の糞などが見られます。しばらく進むと、見晴らしの良い開けた場所に気象観測機が設置されています。自由学園最高学部3年の丸原さんより、観測機に関する説明がありました。林

道の途中の木には、樹木や林業に関するクイズが設置されており、それも楽しみのひとつとなります。林道の最奥では、全員で記念撮影を行いました。

その後、自由学園の高等科生徒が泊まり込みで作業をするための山小屋にご案内いただきました。こちらは、これまでの林道とは異なり、沢に沿ったほぼ道なき道。吉川先生曰く、「健脚さに自信のある方だけついてきてください！」とのことでした

が、ほとんどの参加者が好奇心もあり雪道の中、山小屋へ向かいました。山小屋はコロナ禍の影響でしばらく使用はしていないということでしたが、電気もなく、ランプとドラム缶風呂で数週間過ごすという学生たちのたくましさを感じました。

自由学園名栗植林地の見学後は、都内へ戻り、3月中旬に竣工した慶應義塾の新しい建物「北別館」のミニ見学会を行いました。エントランスをはじめ、内装に南三陸の学校林の杉材をふんだんに使用しております。木の匂いに包まれた北別館にて解散となりました。



■「森を愛する人々の集い」シンポジウム

日時 2025年6月14日(土) 14:30~17:00
会場 三田キャンパス東館6階 G-Lab.
講師 一ノ瀬 友博氏 (慶應義塾環境情報学部教授)



24回目となる今回の講演会は、環境情報学部の一ノ瀬友博教授に依頼し「南三陸慶應の森の自然環境と生物相」をテーマにご講演いただきました。

一ノ瀬教授は2023年から数回、南三陸の志津川山林に入り、フィールドワークを続けていらっしゃいました。今回はその集大成ともいえるご発表ということで、教授の研究室の学生もパネリストとして参加いただきました。さらに、みなさんmiraiプロジェクト生たちも聴衆として多数参加があり、会場のG-Lab. いっぱいに聴衆が溢れました。

私たちを取り巻く環境問題に対して、バイオマス・農業・資源循環といった多様な視点から解決を目指す研究や活動についてのお話を伺うことができました。

「志津川山林」の昆虫や哺乳類、鳥類等の生き物の多様性についてのお話では、多数の写真を織り交ぜてお話いただき、さらに詳細は大学院生によるポスターセッションに引き継がれました。2か所でのポスターセッションでは、まったく異なった切り口から志津川山林についてのお話を伺うことができ、どちらのポスターセッションもどんどん白熱していきました。質疑応答のタイミングでは、「学校林とは？」という根幹を問うような質問もあり、今後の慶應義塾の学校林について各々が考えをはせるきっかけとなりました。



講演会後は三田キャンパス内のファカルティクラブに移動し、懇親会が開催されました。ポスターセッションで使用した資料も懇親会場へ移動し、友の会会員、学生、一般参加者の間で活発な議論が行われました。

■2025年度の研修旅行について

2025年度の研修旅行は現在計画中です。

今回も日帰りでの実施を検討しております。しばらく慶應義塾の学校林を訪れる機会がありませんでしたので、原点回帰として学校林の訪問を組み込んだスケジュールとしたいと考えております。

開催時期は、2024年度と同様、3月頃を予定しております。

詳細が決定いたしましたら、福澤育林友の会ホームページ(<https://ikurin.jp/>)にて最新情報を更新してまいります。皆様のご参加をお待ちしております。

■人事関連のご報告

【会長の退任・新任】

6月の慶應義塾新理事会発足に伴い、福澤育林友の会の会長も下記の通り交代がございました。

	旧	新
会長	岡田 英史	駒形 哲哉

【訃報】

大学名誉教授(法学部)、元常任理事 田中 俊郎 君には2025年6月2日 逝去されました。享年 79。元財団法人福澤記念育林会理事長をお勤めいただき、福澤育林友の会の設立にもご尽力いただきました。昨年度の当会のイベントにもご参加いただいておりますが、急な訃報でございました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2024年度 福澤育林友の会 会計報告

会員：143名（2025年3月31日現在）

2024年度	収 入	支 出	摘 要	
前年度繰越金	3,918,841			会費の口座振替について 2025年の口座振替予定日は2025年9月24日（水）を予定しています。
会費	1,125,000	0	2024年度会費	
事業参加費	172,000	0		
利息	2,235	0	普通預金利息	
寄附	0	1,000,000	慶應義塾へ寄附	
通信費	0	96,514	ニュース・案内等発送通信費	
事業経費	0	517,814	シンポジウム・研修旅行	
手数料	0	19,167	会費引落サービス手数料	
当年度収支	1,394,235	1,633,495		
次年度繰越金	3,679,581			

【慶應義塾への寄附】

本会会則の目的にある「慶應義塾の学校林の保育に関する支援を行う。」こととして、年度末に残余金の一部を慶應義塾へ寄附しました。寄附から支出した事業・内容については、慶應義塾から連絡を受けて、後日ご報告予定です。

【事務局より】

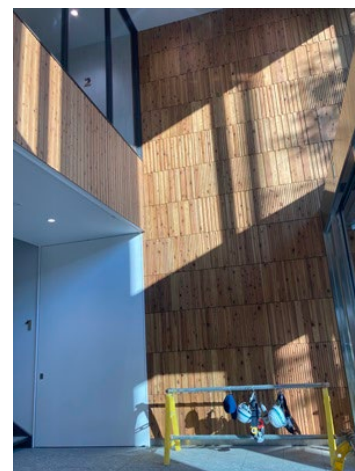
2024年度は、6月に講演会、3月に日帰りでの研修旅行の実施を行いました。研修旅行の際、最後の見学場所となった北別館も、現在は各



天井まで南三陸の木材を使用しているフロア

フロアに事務所などが入り、本格的に稼働しております。エントランスをはじめ、様々な場所に南三陸の木材が使用されております。経年によりどのように育っていくのかがとても楽しみです。

今年も異常な暑さが続いておりますので、皆様何卒ご自愛ください。



エントランスも南三陸の木材、竣工前の様子